

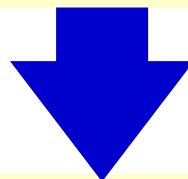
第68回 定時株主総会

平成30年6月22日
東洋合成工業株式会社

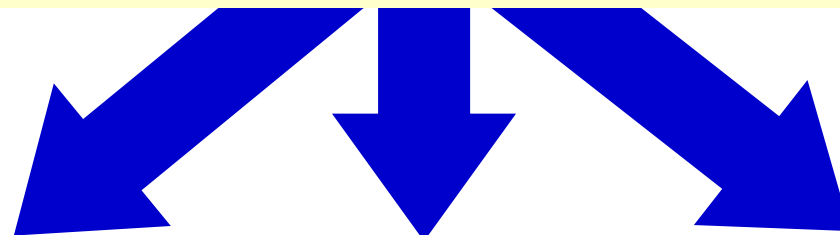


当事業年度の事業の状況

- 世界経済 : 経済状況良好
- 日本経済 : 緩やかな回復。為替変動あり。



- 電子材料市場 : グローバル景気好調 + 電子機器普及により需要拡大
電子デバイス（スマホ、高精細ディスプレイ、車用デバイス）、大容量通信、メモリ



感光材 需要増

半導体・ディスプレイの製造に必須

高純度溶剤 需要増

半導体・ディスプレイの製造に必須

国内化学品 需要増

景気拡大に伴い、化学品の国内需要も増加

- 売上高：205億円、+13%
- 全事業分野 過去最高を更新：感光材+16%、化成品+10%、物流+5%
- 営業利益：前年比2.5倍、13億円、
- 経常利益：前年比2.6倍、約11億円。各計画も超過達成。
- 当期純利益：前年比3.7倍、8.6億円

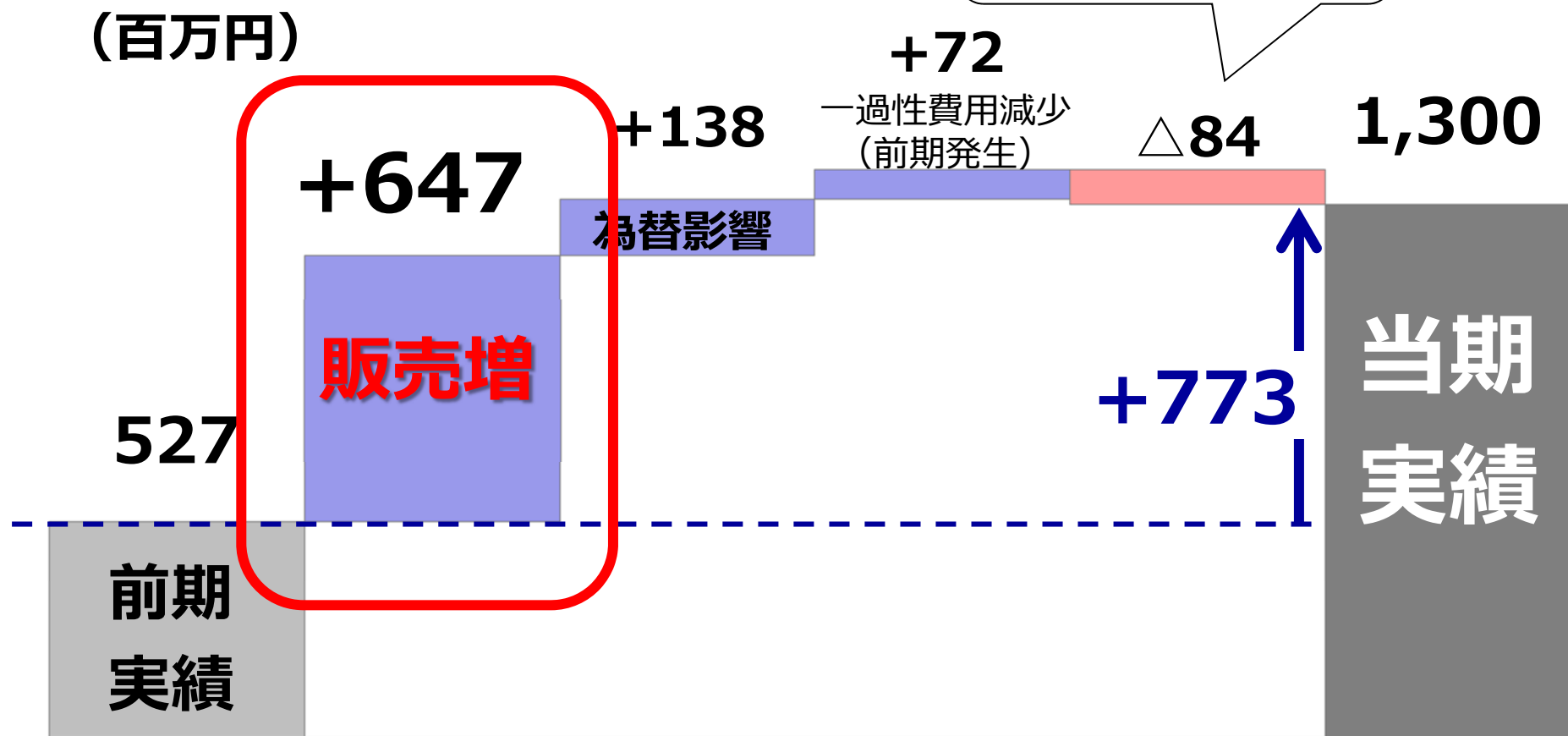
(百万円)	2017.3	2018.3	2018.3	前年比		計画比	
	実績	計画	実績	増減額	率	増減額	率
売上高	18,183	20,000	20,536	2,353	+13%	536	+3%
営業利益	527	1,150	1,300	773	2.5倍	150	+13%
経常利益	412	1,000	1,089	676	2.6倍	89	+9%
当期純利益	233	750	863	630	3.7倍	113	+15%

実績レート¥108/\$

実績レート¥111/\$



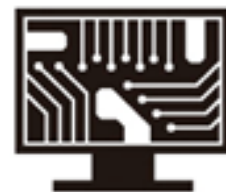



●電子材料・化成品の販売増により大幅増益。

- 機能強化費用（人件費増）
- 製品認証費用（欧州）
- 製品開発支援システム導入

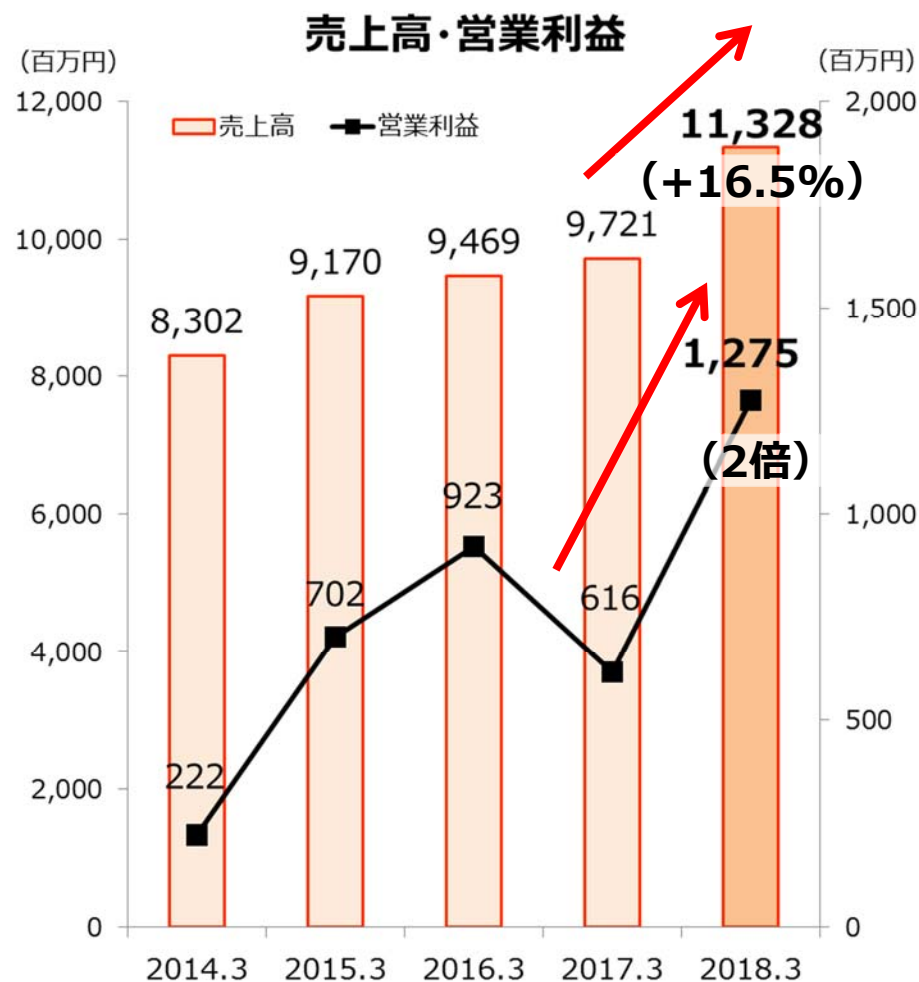


- 売上高は6期連続増収（年平均成長率+6.7%）
- 事業が安定的に拡大



市場	半導体、フラットパネルディスプレイ、その他電子材料関係 			香料 食品、トイレタリー 	化学品 物流 
	当社商品	感光材 	電子材料 高純度溶剤 	香料材料 	化学品 物流・保管 
売上高		感光性材料 11,328百万円、55.2%		化成品 9,208百万円、44.8%	

半導体向け、ディスプレイ向けともに需要急増、売上高・利益共に大幅増



■ 市場概況

半導体向けは2017年からの需要急増により拡大、ディスプレイ向けは高解像度化の進展により好調に推移。

■ 業績概要

売上高：11,328万円

前期比+1,607百万円、+16.5%

営業利益：1,275百万円

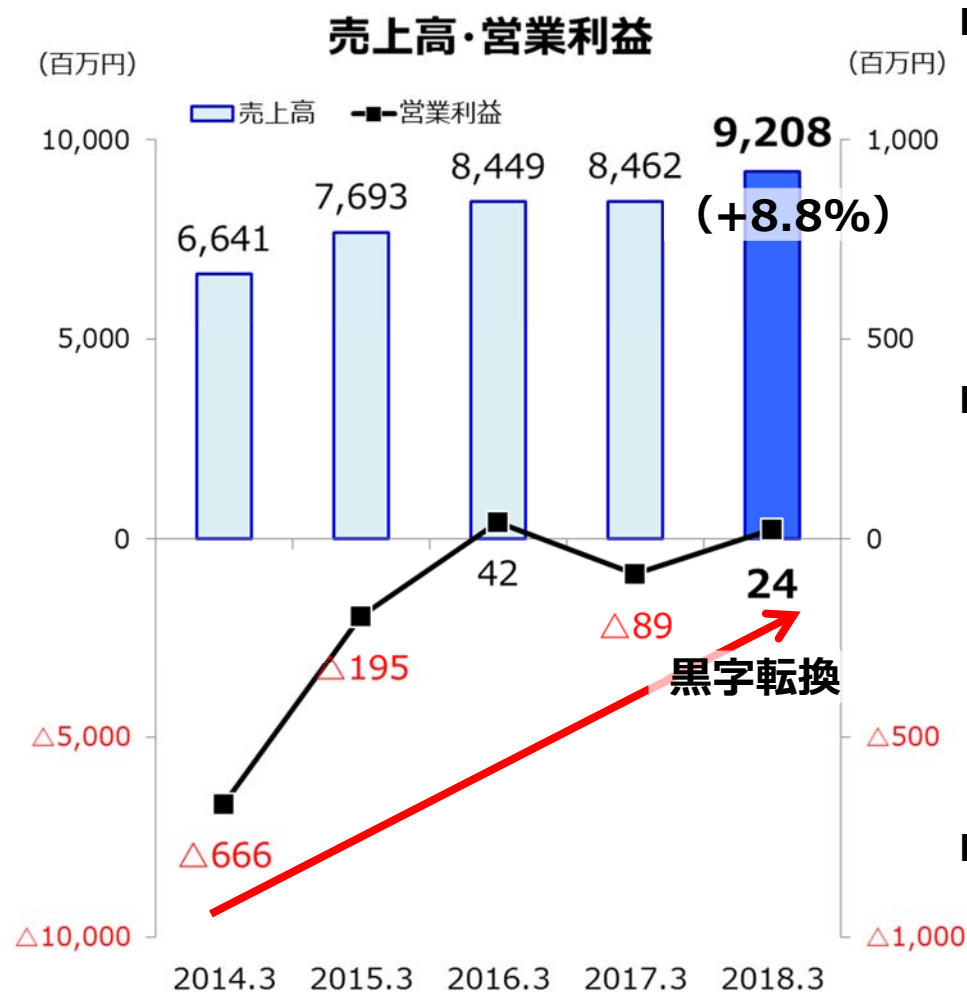
前期比+659百万円、2倍

■ 今後の市場環境

半導体：多層構造の半導体（三次元メモリ・DRAM・ロジック）の増加、IoT・記憶媒体・EV・AI・クラウド化・5G通信・FA等により、感光材需要は、高成長が持続する見通し。

ディスプレイ：ディスプレイ関連需要も増加が続く。スマホ、高解像度TV、タッチパネル、車用ディスプレイなども増加の一途。有機ELパネル関連も堅調。

香料材料、高純度溶剤、ロジスティックの全てで増収となり、黒字転換



■ 業績概要

全分野で売上増加。

売上高 9,208百万円
(前期比+746百万円、+8.8%)

営業損益 24百万円
(前期比+114百万円、黒字転換)

■ 分野別概況

● 香料材料

需要増に伴い、海外主要顧客を中心に増収

● 高純度溶剤

半導体・ディスプレイ等の需要増により、増収

● ロジスティック

旺盛な需要により高稼働を継続、増収

■ 今後の市場環境

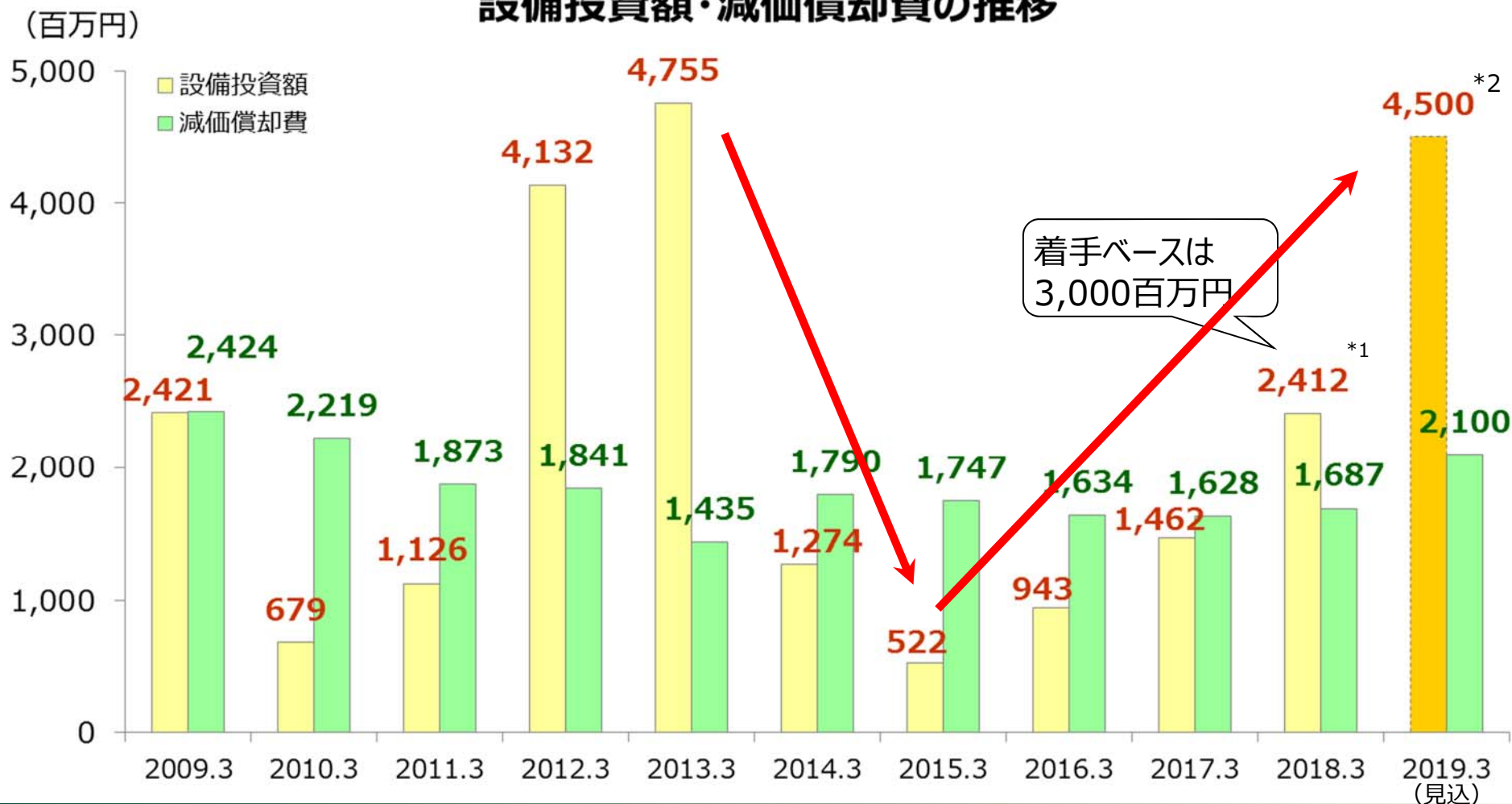
香料市場は引き続き成長が続く
半導体・ディスプレイ関連も好調続く
化成品保管需要も好調

当期純利益：前期比3.7倍の863百万円

(百万円)	2017.3期	2018.3期	増減額	増減率	
売上高	18,183	20,536	2,353	+13%	[補助金収入 △138] 前期、淡路工場補助金発生、 当期は発生無し
営業利益	527	1,300	773	2.5倍	
営業外収益	224	64	△159	△71%	[為替差損 △66] 年初以降の円高推移により 為替差損が発生するも、 前期比減少
営業外費用	339	276	△63	△19%	
経常利益	412	1,089	676	2.6倍	[特別利益 +154] 固定資産（旧工場用地） 売却
特別損益	△255	114	370	-	
税引前 当期純利益	156	1,203	1,047	7.7倍	
法人税等	△76	340	417	-	
当期純利益	233	863	629	3.7倍	

- 2014.3期以降、財務改善を優先し設備投資を抑制
- 市場環境の変化に伴い、生産能力増強の設備投資へシフト

設備投資額・減価償却費の推移



貸借対照表

- 自己資本比率は25.7%へ上昇
- 有形固定資産は増加だが、有利子負債は減少

(百万円)	2017.3末	2018.3末	増減額
流動資産	11,465	12,841	+1,376
現金預金	1,865	2,525	+659
売上債権	3,183	3,695	+512
棚卸資産	5,889	6,108	+219
その他	527	511	△15
固定資産	16,959	17,456	+496
有形固定資産	16,059	16,585	+526
無形固定資産	366	331	△35
投資・その他	533	540	+6
資産合計	28,425	30,298	+1,872
負債	21,424	22,514	+1,090
仕入債務	2,184	2,872	+687
有利子負債	15,008	14,460	△547
その他	4,232	5,182	+950
純資産	7,000	7,783	+782
株主資本	6,955	7,738	+783
負債・純資産合計	28,425	30,298	+1,872

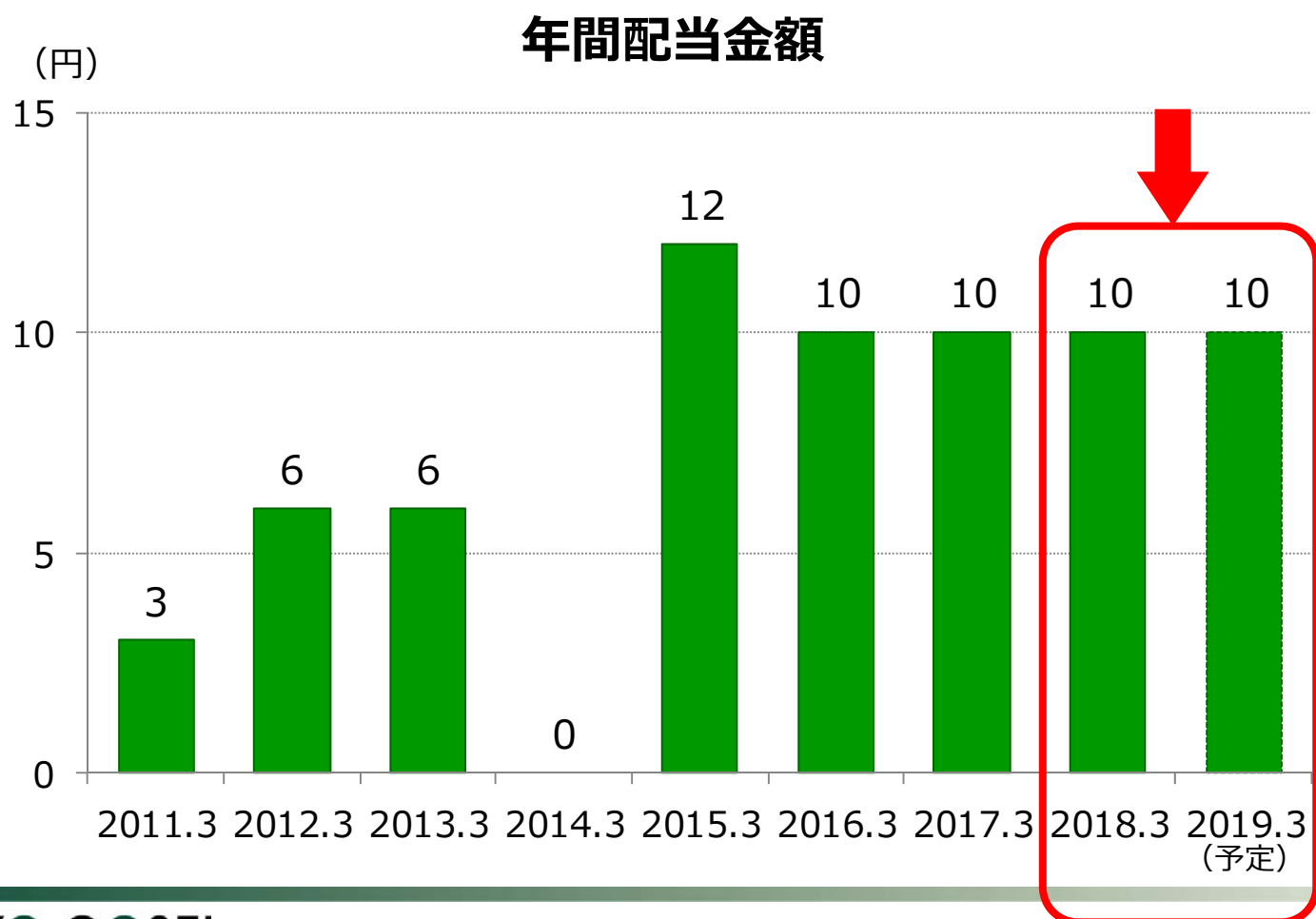
[自己資本比率]
25.7% (前期末比1.1pt)

[売上債権 +512]
販売増により増加

[有形固定資産 +526]
設備増強工事に伴い増加

[有利子負債 △547]
有利子負債は減少

配当は、株主還元と、成長投資、財務体質改善 を総合的に勘案し、
年間配当は、10円とさせていただきます



業績予想と今後の見通し

2019年3月期 業績予想

- 需要拡大を見込む
- 想定為替レートは ¥107/\$

(百万円)	2018.3期 実績	2019.3期 業績予想	増減額	増減率
売上高	20,536	22,000	+1,464	+7.1%
営業利益	1,300	1,100	△200	△15.4%
経常利益	1,089	1,000	△89	△8.2%
当期純利益	863	670	△193	△22.4%

感光性材料セグメントの設備能力増強

化学工業日報

2017年10月24日

東洋合成、感光材を増強

FPD向け 千葉で来春3〜4割

東洋合成工業は、感光材事業で相次ぎ設備投資を実施する。感光性材料の主力生産拠点である千葉工場（千葉県東庄町）で、フラットパネルディスプレイ（FPD）向け需要増などに対応し、ボジ型感光材の生産能力を拡大するほか、AerF（ラッチアルゴン）やEUV（極紫外線）世代に対応した先端材料系ポリマーを増強する。ともにも2018年4月までに稼働する計画で、今年度下期中に実施する。生産能力はそれぞれ3〜4割高まる見通し。半導体・FPDメーカーの生産拡大にともないフル稼働が続いていることから供給体制を整備する。

先端材料系ポリマーも



感光性材料の主力生産拠点である千葉工場で相次ぎ設備投資を実施する

東洋合成工業の感光材事業は、旧世代から先端の世代まで対応したレシ

ストポリマー、感光材、また化学増幅型レシストに用いられる光酸発生剤

（PAG）と幅広く手がける。複雑構造の先端PAGやポリマー重合が可

能なほか、ボジ型感光材で培った高い粉体晶析技術、高純度・低メタルと

燥工程の設備を増強する。これにより複数ある反応槽のうち最大スケールの反応槽がフル稼働できる体制となり、全体の生産能力は3〜4割向上する。同社の感光材への設備投資は12年以來となっている。

中国などで液晶パネルへの投資が活発化しているほか、有機ELパネルが本格的に立ち上がることからFPD向け感光材の需要が高まる見通し。また、IoT（モノのインターネット）の進展な

どによるデバイス多様化で、半導体プロセスの旧世代である1線、1線レシスト材料の需要が増大しており、供給体制の強化により対応する。半導体向けの先端材料系ポリマーでは、AerF液浸や立ち上がったEUV向け需要に対応する。千葉工場にあるラインのうち1ラインで反応設備を増設。これにより全体の生産能力は3〜4割高まる。

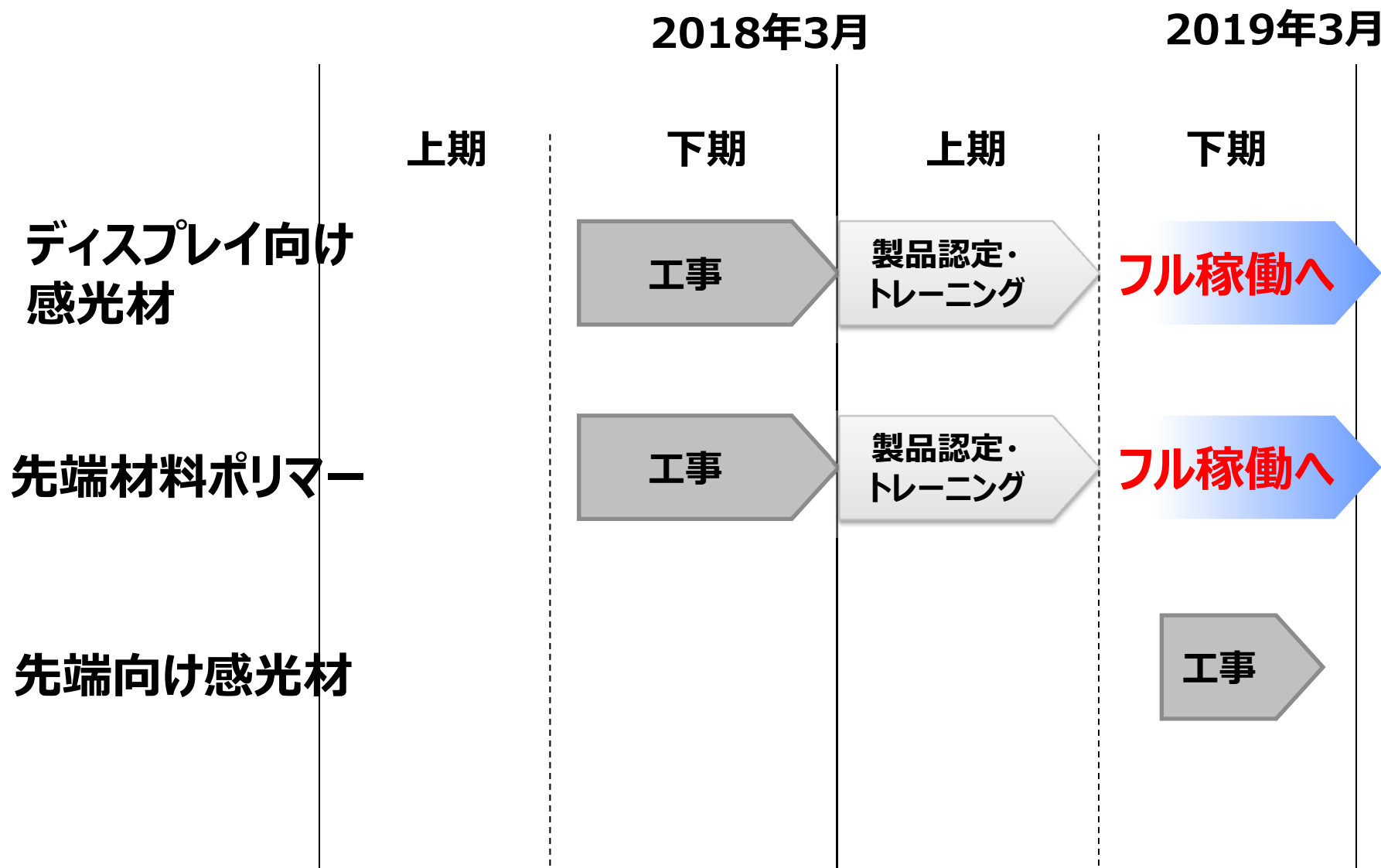
半導体デバイス分野では3D NANDフラッシュに

シメモリー向け需要が伸びているほか、先端デバイスの多層レシストプロセスにより使用材料が増加。線幅7μm以下世代のフォトレシストに対応したEUV向けプロセスも立ち上がっており、これらの需要に応える。

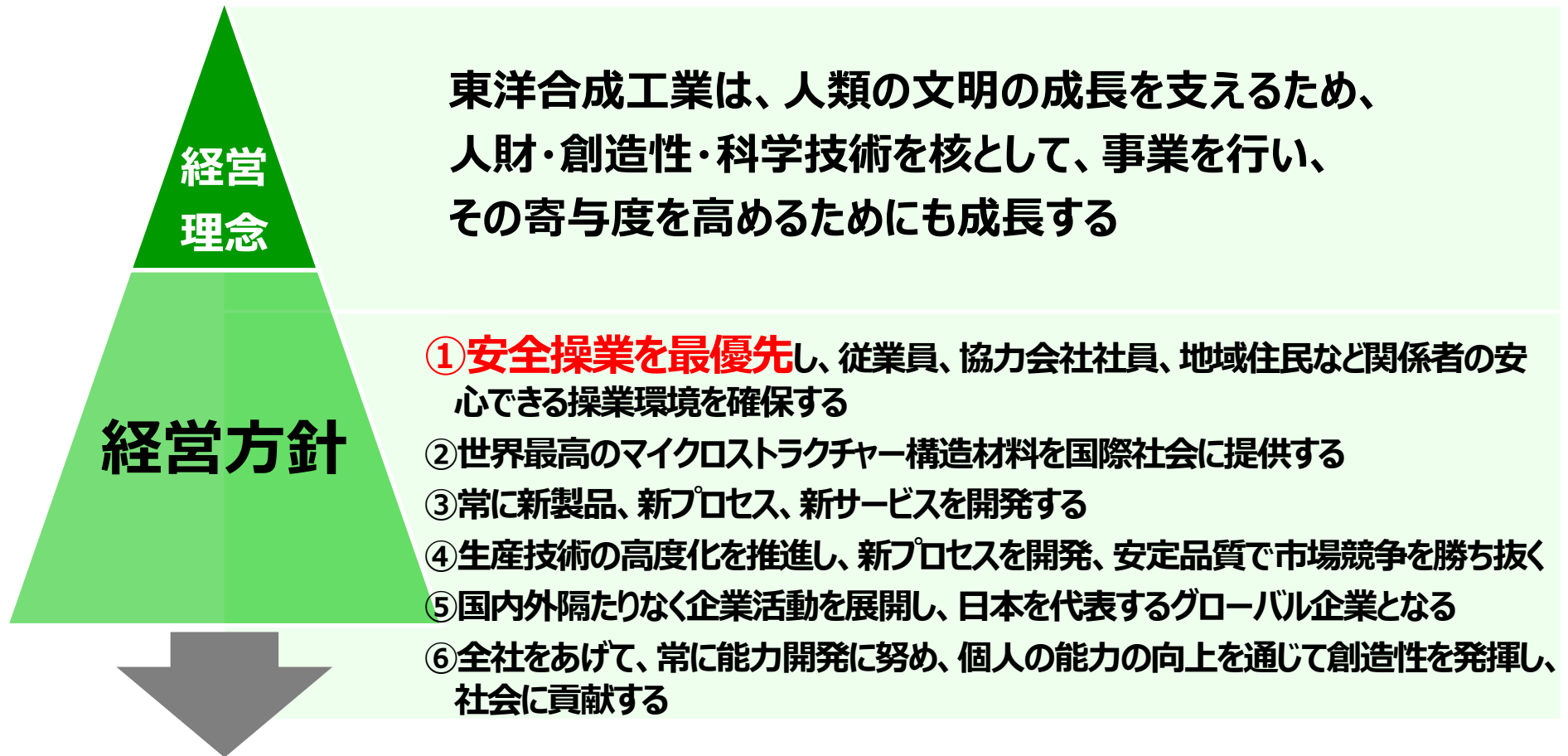
同社は昨年、千葉工場で先端半導体向けPAGを増強している。今回、フォトレシストの性能を左右する感光材およびポリマーについて、増大する需要や先端分野のニーズに

いった品質面などに強みを持つ。
千葉工場にあるナフトキン系のボジ型感光材の生産ラインのうち、乾

2018年、2019年の感光材の生産能力増強計画



事業を支える安全の取組み



創造的かつ先進的な製品/サービスを通して、顧客製品の競争力を高め、人類文明、社会に貢献する

安全最優先

経営方針 **①安全操業を最優先**し、従業員、協力会社社員、地域住民など関係者の安心できる操業環境を確保する

行動指針

安全最優先

1. 常に安全を最優先します

－私たちは、社員、取引先、地域社会の安全・安心・信頼を確保します

価値創造

2. 新たな発想で価値創造にチャレンジします

課題解決

3. 現場・現物・現実に基づいて課題を解決します

個人とチームの成長

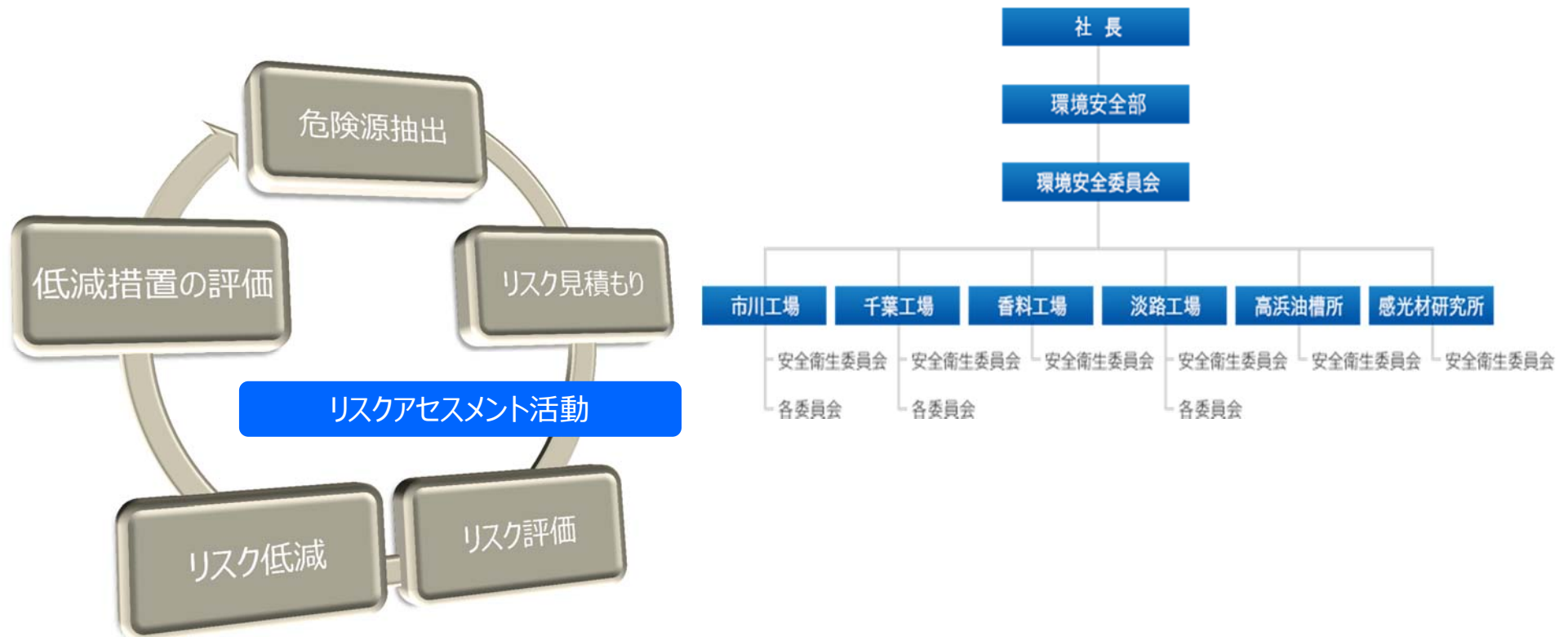
4. 個人とチームが共に成長します

お客様の信頼

5. お客様の感動を創り出し信頼を勝ち取ります

労働安全衛生 リスクマネジメントシステム：OSHMS

リスクアセスメントによりリスクを洗い出し、一部は設備投資予算として計上。
ルールや施策により、リスク低減状況を月次で進捗管理



今年3月、全世界的な労働安全衛生環境改善の意識の高まりから国際規格ISO45001が発行。当社もOSHMSからISO45001へ移行予定。

事業継続マネジメントシステム：BCMS

産業のキーマテリアルを製造する我々は、「人命保護、資産保護」を目的とした防災対策では不十分と考え、先進的な取り組みとしてISO22301を認証取得しました。



ISO22301認証票



防災格付 認定票

2011年12月、日本政策投資銀行の「防災格付」において「**防災及び事業継続への取り組みが特に優れている**」との高い評価を受け、化学メーカーとして初の適用融資が実施されました。

安全パトロール

全事業所を対象に多彩な安全パトロールを実施してきます。事業所相互に行うもの、トップマネジメントが参加するものなどを行い、効果的、実質的な改善につなげています。

経営トップによる安全パトロール



事業所間相互安全パトロール

利害関係者への安全啓蒙活動

自らが発信者となり仲間へ安全を伝えます。教える側はより深く学び、
受ける側は身近な業務内容から安全の意識を深めます。



ローリードライバーへの
漏洩リスク実演

業務に密着した
安全の意識の広がり



協力会社と共に安全啓蒙



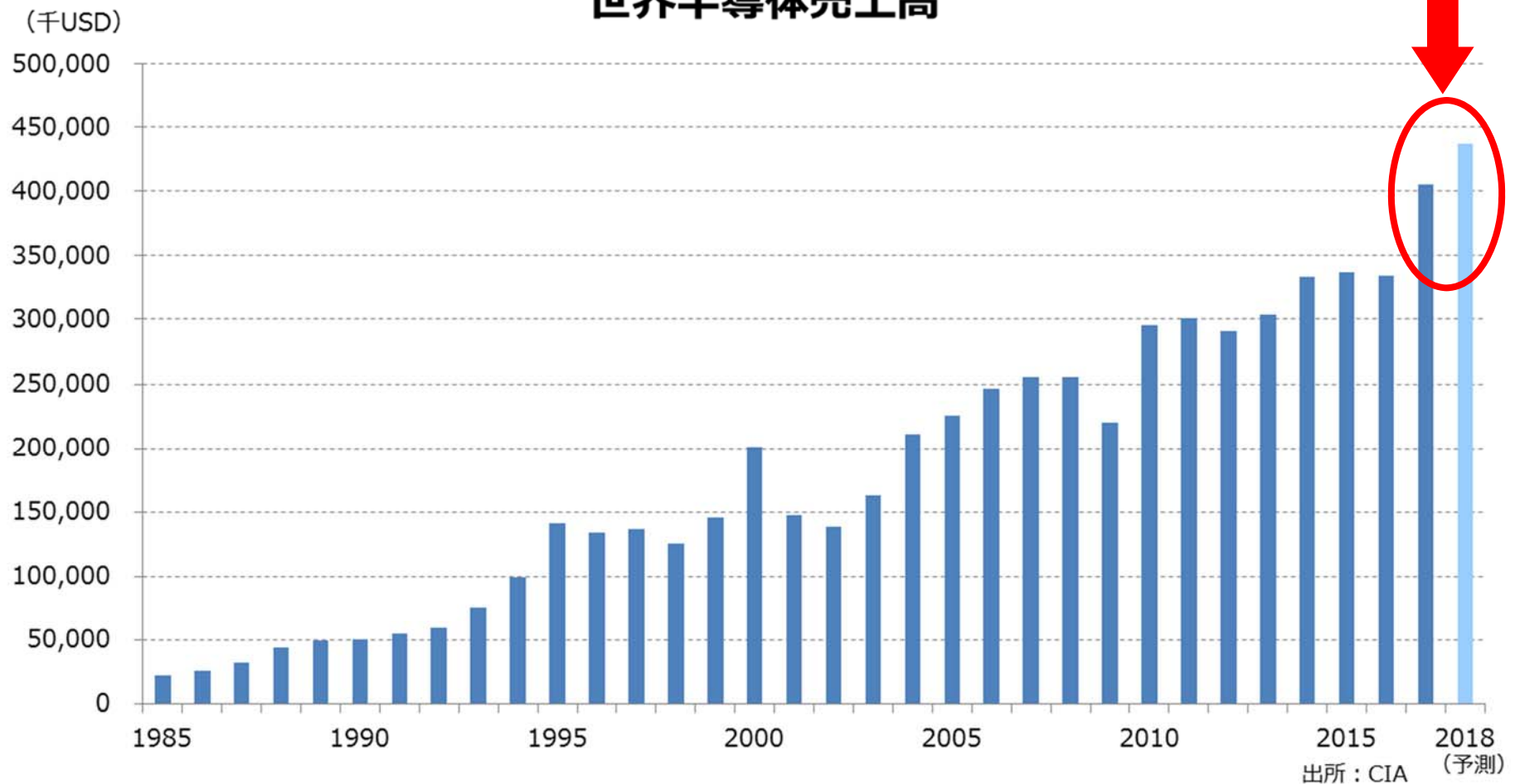
人材育成

市場環境と当社の方向性

半導体市場

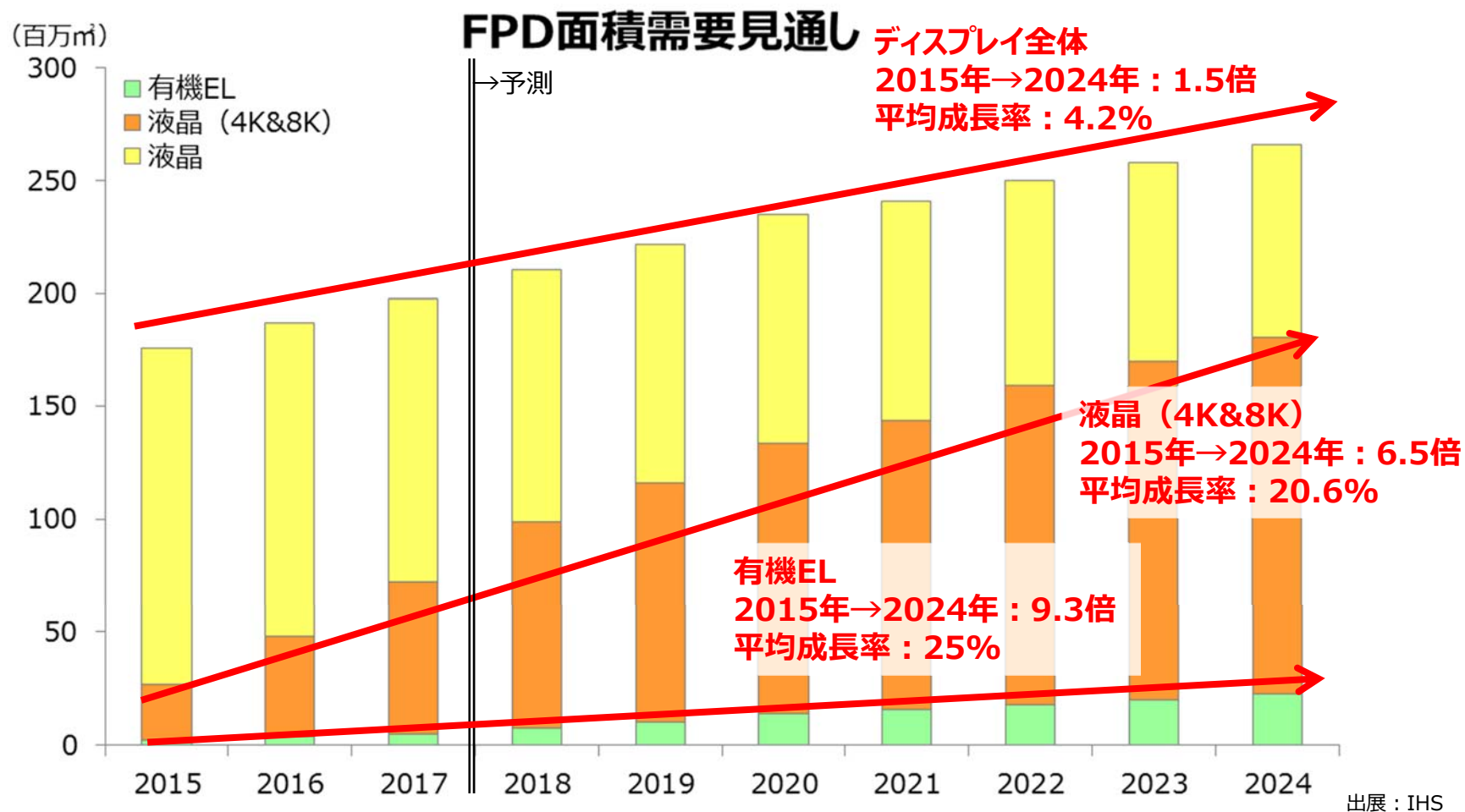
2017年世界半導体出荷額は、前年比+21%の大幅成長。
2018年予測：+10%以上。当面の間、高成長が続く見込み。

世界半導体売上高



ディスプレイ市場

- 台湾・中国におけるディスプレイ生産の拡大により、成長が続く
- 画面の高精細化に伴い、高品質な感光材ニーズが急増



当社の感光材製品ラインナップ

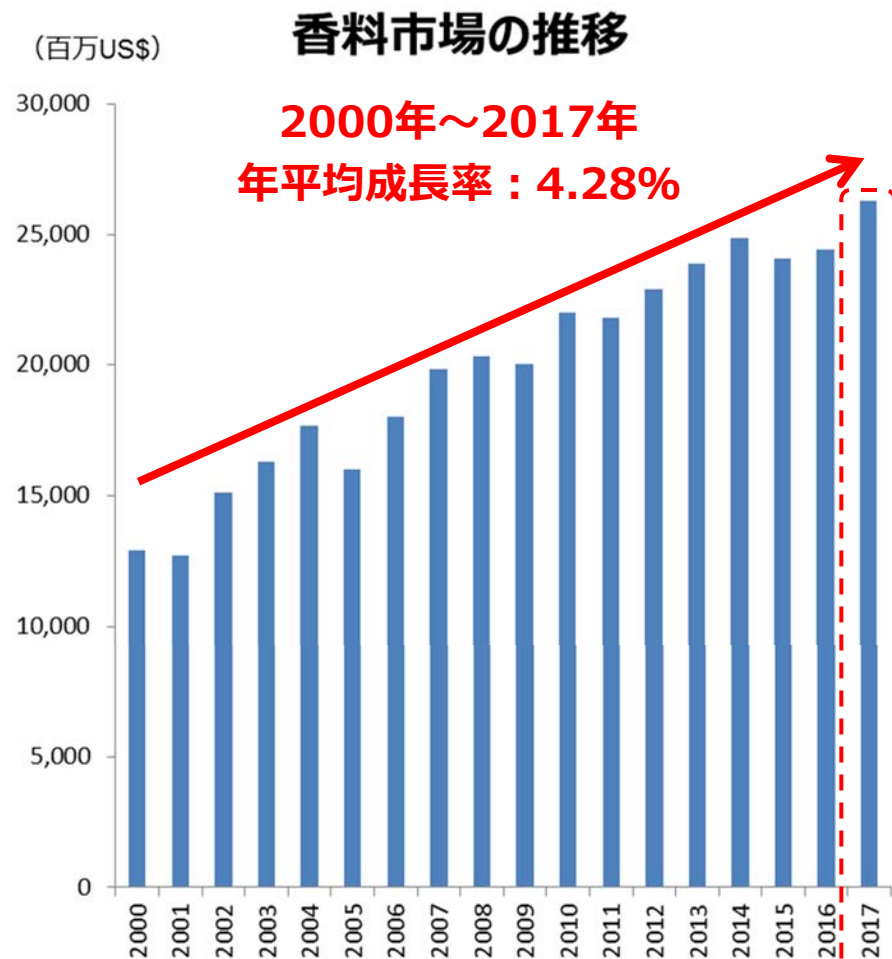
- ディスプレイ用途から先端半導体用途への感光材を幅広くラインナップ。

	FPDパネル用		半導体用							
	g + h + i 線	i線	g線	i線	KrF		ArF			EUV
							液浸	マルチプル パターニング		
線幅	~ 2,000nm	~ 1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~14nm	~7nm
用途	テレビ用、 一般用	有機EL 4K・8K スマホ	IGBT、LCDドライバ、 LED		SSD、DRAM / NAND FLASH メモリ					次世代ロジック LSI
			先端ロジックLSI							
市場			新興国の 需要増	次世代 FPD拡大	拡大	拡大	急拡大	横ばい	量産化、需要拡大	



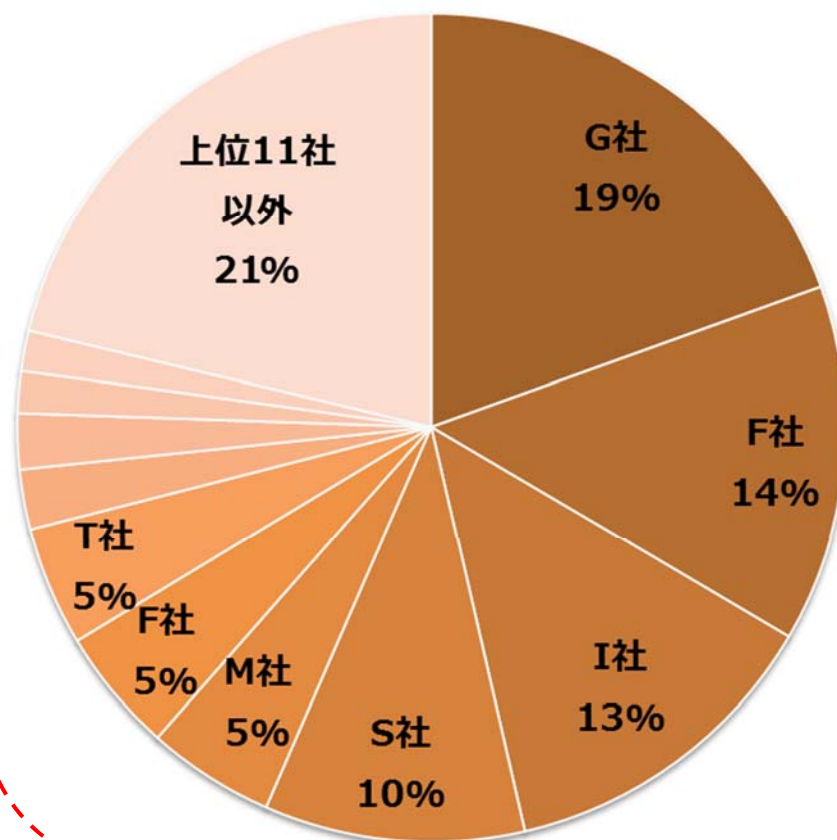
香料市場

香料市場の年平均成長率は約4%、今後も同水準の成長が続く見通し
世界香料市場は上位7社でシェア約70%



出展：Leffingwell & Associates

2017年 世界香料市場シェア



ロジスティック事業の事業拡大

- 高い参入障壁と好立地条件に加え、外環道が2018年6月2日に延伸開通
- さらに化学メーカーが運営する油槽所ならではの設備、ノウハウにより高稼働継続



今後のビジョン

半導体黎明期から約半世紀、高純度化技術・合成技術・製造技術を独創的に開発し、現在、独自のポジションを確立するに至りました。

スマートフォンや大容量通信のグローバルな普及、さらにあらゆる電子機器のIoT化・AI化が企図される昨今、電子材料需要は、高度化/多品種化しつつ急拡大し、既にお客様から数多くのご要望を頂いております。

このような需要に応えるために、当社は、今後5年間、感光材をはじめとする電子材料分野へ大規模かつ戦略的に投資を行い、これからの社会を支える高機能素材メーカーとして、売上高300億円を目指し、企業価値を向上を通して、株主をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待にお応えしてまいります。

何卒、引き続きご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。